



# バンコク便り



## 1.はじめに

タイ気象局は10月24日、乾季に入ったことを正式に発表しました。雨期の湿気が多い日々とは違い、乾いた空気の爽やかな季節を肌で感じることができます。10月25日～29日まで行われたプミポン前国王の葬儀も無事に終わったバンコクより当地情報をお伝えいたします。

## 2 当地ビジネス情報

バンコク日本産農水産物・食品輸出商談会 2017開催

10月17日～19日にバンコク市内ホテルにてバンコク日本産農水産物・食品輸出商談会2017（主催：JETRO）が開催されました。日本からの農林水産・食品輸出国でASEAN諸国1位となっているタイは有望市場として注目されています。

本商談会は2014年から4年連続で開催されるなど、タイへの販路開拓・輸出拡大を目指した計66社（前回43社）が出演されました。北海道、秋田県、愛知県及び鹿児島県等、日本全国から牛肉や水産物、そば、お菓子、健康食品など様々な商品が並ぶ中、山形県からも酒田米菓株式会社様が参加されておりました。会場内では多くの当地インポーター、飲食店関係者等との商談が行われ、出展者からは「反応が良ければ、今後進出も検討したい。」といった声も聞かれました。今年タイは進出日系企業数で非製造業が初めて5割を超えるなど卸売業やサービス業の進出が目立っていることもあり、今後の動向が期待される商談会となりました。



会場風景



水産系展示ブース



酒田米菓株式会社様、出展ブース

## 3.現地トピックス

前回の号外でもお伝えしましたが、10月13日はプミポン前国王が死去されてから1年が経ち、26日には火葬が行われました。26日の火葬当日は当地駐在員などはもちろん、観光客も黒の衣服を身に着けている方が多く、タイ国民同様に敬意を表していました。街頭には火葬会場の様子がモニターが映し出され、その様子を見ている方や、百貨店の入り口などに設置されているプミポン前国王の祭壇で、祈りを捧げている方の姿も多く見られました。タイ政府の発表によると火葬式に集まった国民は23万243人と発表し、40以上の世界各国からも国家元首や特使が参列されました。秋篠宮ご夫妻も参列され、日本のニュースでも取り上げられていました。一部では反王室勢力の行動も懸念され、火葬式会場周辺には多数の警備員も配置されていましたが大きな問題もなく、約1年間に及ぶ服喪期間は10月30日に明けました。

10月1日～29日にかけて一般公開が中止されていた王宮周辺も現在では再開されています。また今回の葬儀のために作られた火葬施設は11月2日～30日まで一般公開され、その後解体されるため、地元メディアによると11月末までに300万人以上が訪れると見込んでいるとのことでした。



火葬当日の服装



街頭に設置された祭壇

【本件に関する連絡先】 海外業務部 石井、榎 023-626-9050  
バンコク駐在 (カシコン銀行ジャパンチームトレーニー) 齋藤 +66-(0)6-3206-2823